

マルトミです



この一年間の御愛顧

誠に有難うございました。

平成26年もまもなく終わろうとしています。この一年、皆様にはいかがお過ごしでしたでしょうか。

1月10日に弊社の会長が92歳で亡くなりました。その節は大変多くの方々に御弔問いただき、誠に有難うございました。篤く御礼を申し上げます。

ちょうど今年は弊社が創立100周年を迎えた年でもあり、正にこれで一つの時代が終わり会社がまた新たなスタートを切ったのだという思いを強くしております。

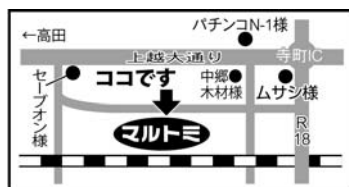
一口に100年と言っても、大正4年から始まった本当に長い年月で、弊社がここまでやって来れたのは何世代にもわたる御客様、取引メーカー様、従業員スタッフの皆さんの途切れることのない御支援と御協力の結果であります。これまでのすべてに心より感謝申し上げるとともに、今後もより一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

来る平成27年が皆様にとってよりよい年となりますことを心からお祈り申し上げます。

マルトミカレンダー (12月 ~ 2月) 赤色は休業日

12月							1月							2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31							

※冬期間は除雪機対応として、降雪状況により休日も臨時営業致します。



株式会社 マルトミ

上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com

ホームページ www.maru-takada.com

除雪機ご使用前の注意点と安全な使い方

今年も雪のシーズンがやって来ました。毎年のことですが、除雪機をお使いになる皆様に、使用前の注意点と、使用時の大事なポイントをそれぞれ3つずつ挙げさせていただきます。

除雪機は、きちんと使用法を守って作業される限り決して怖いものではなく、事故の心配もまずありません。とはいえ、強力な機械ですから、くれぐれもご注意の上、どうか安全にご使用くださるようお願い致します。



<エンジンをかけるとき>

- ① **始動前に、エンジンオイルがちゃんと入っていることをお確かめ下さい。**
オイルの量が少なかったり汚れていたりすると、大きな故障に結びつく危険があります。
- ② **バッテリーは十分ですか。**
バッテリーが不足していると、エンジンがかからなくなったり、雪を飛ばす筒が回転しにくくなったりしますのでご注意ください。そうなった場合は充電が必要です。
- ③ **キャブレターが詰まっていますか。**
バッテリーは十分にあるのにエンジンがかからなかったり、かかっても音が波打つようなときはキャブレター（気化器）の詰まりが考えられます。そうなった場合は修理が必要です。

<安全な使い方>

- ① **ハンドルから離れるときは必ずエンジンを止めてください。**
基本中の基本です。これさえ守っていただければまず事故は起きず怪我することはありません。
- ② **雪を掻き込む部分（オーガ）や掻き込んだ雪を飛ばす部分（ブロア）に触れるときは、エンジンを止めて、それらも完全に止まっていることを確認してください。**
しばらく惰性で回っている場合もありますので、必ずご確認下さい。
- ③ **熱くなっているマフラーに触れないでください。**
とくに小型の除雪機はエンジンのマフラー（排気筒の部分）がむき出しになっている機種が多く、エンジンを止めた後もしばらくは熱い状態になっていますので、手を触れないようご注意ください。

それから、作業される方の危険とは別に、作業中除雪機の周りや雪を飛ばす方向に人や車などがいないことを充分確認してください。とくに雪の中に小石などが入っていると遠くに飛んで大変危険です。

除雪機の点検・修理はおまかせ下さい。



降雪前の点検も、時期中の修理対応も、除雪機のことなら何でもお任せ下さい。迅速・丁寧・低料金にてご対応させていただきます。また部品類も豊富に取り揃え、在庫のない場合でもすぐにお取り寄せ致しますので、ぜひご利用願います。

秋の展示会に御来場いただき有難うございました。



10月4・5日、除雪機を中心とした秋の展示会を開催しました。これで、今年も例年通り春、夏、秋と3回のイベントを無事開催することができました。毎回多くの皆様にご来場いただき誠に有難うございました。来年もいろいろなイベントを行う予定ですが、当社は今年創立100周年を迎えておりますので、それを記念する行事等も計画しています。

除雪機の点検・整備の追い込み中です。



今年も雪のシーズンが近づき、当社では毎日除雪機の点検・整備に追われています。これが一段落すると、今度は、雪が降って除雪機が実際に使われてから修理でまた忙しくなります。

上越では前の2シーズンは小雪でのんびりした状態、その前の2シーズンは大変な大雪で修理が殺到し休む間もない状況でした。今年はどうなるかわかりませんが、準備万端整えて皆様の御用命をお待ちしています。

お客様訪問

上越市 森のようちえん てくてく 小菅江美さん

11月半ばの小春日和の一日、雑木林の中にある森のようちえん てくてくをお訪ねし、かやぶきの東屋、木の上にある小屋など楽しそうな施設を拝見し、子供たちがいろんな場所で行っていることをしている中でお話を伺いました。

このようちえんを開園される前からの知り合いである小菅さんについて、ここで御紹介したいことはたくさんありますが、それにはスペースが足りません。今回私が感じたことだけを言わせていただくと、毎日こうして過ごせる子供たちがすごく幸せに見えたことと、その前提となる親御さんたちのお考えが素敵だという思いにつきます。最近よく耳にする、子供たちが生き物にさわれないとか、虫を見るのもいやがるという話しとは無縁の世界がここにはありました。

小菅さんが言われた、「ここで子供たちが体験していることは、昔はだれもが家に帰ったらやっていて、当時の学校ではそれ以外の、勉強や団体生活の規律などを学んでいました。社会の仕組みが大きく変わり、子供たちにとって必要な経験を得る機会が少なくなりました。今、ここでそれを教えることが私たちの役目だと思っています。」という言葉にもとても共感できました。



森のようちえん てくてくは現在、小菅さんと2名のスタッフ、それとボランティアの皆さんによって運営されています。園児数は17名で、来年は23名に増えるそうです。

お問い合わせはTEL 523-5166まで。

日本の国蝶 オオムラサキ

オオムラサキは日本を代表するチョウ、国蝶とされていて、何度か切手の図案になったりもしています。でも、国の花が桜、国の鳥がキジというのは御存知でも、国の蝶なんていたのかと思われる方がほとんどではないでしょうか。まあ、それが決められた経緯や選考基準とかはおいといて、ここではそれほどの蝶だと知っていただけたら充分でしょう。

愛好家に人気の高いタテハチョウのグループの中で特別に大きく、オスは紫と黒を基調に黄色、赤色の小斑を配した美しいハネをもち、メスは、鮮やかさはありませんがよりさらに大きく、世界最大のタテハチョウのひとつに数えられています。夏の雑木林に現れ、早春にのみ姿を現すギフチョウとともに里山を代表するチョウと言えます。

成虫は樹液を好み、長野や山梨県などの雑木林ではカブトムシやカナブンなどとともにクヌギの樹液に群がるすがたをよく見かけますが、上越ではクヌギなど十分な樹液を出す木が少ないため、そんな場面に出くわすことはめったにありません。

そこでおススメが丘の上での観察です。オオムラサキのオスは、午後から夕方にかけて小高い所に上がって占有行動をとる習性があります。ですからこの辺の近くの山に行き、周りを見下ろせるような開けた場所で待っていると、高い木の枝にとまって時々すばやく飛ぶ様子を見ることができます。飛翔はとても力強く、近くに来ると羽音が聞こえるほどです。また、成虫でなくて良ければ、もう一つの楽しみ方としてこの時期ならではの越冬幼虫探しがあります。食樹であるエノキの根際に積もった落葉を一枚ずつめくってゆくと、2本の角をもった可愛い幼虫を見つけることができます。

私が生きたオオムラサキを初めて見たのは中学生の時、場所は金谷山のレルヒ像のそばでした。ずっと頭上を飛ぶのを見上げていてようやく網の届く高さの枝にとまったところを首尾よくネット・インできたのですが、地面に伏せた網の中でばたばた暴れるのを押さえようとしているうちにするっと抜け出して飛んで行ってしまいました。その時の悔しい気持ちは50年近く経った今でも鮮明に思い出せるほどです。

話は変わりますが、国蝶があるなら、他にもどんなものがあるか気になりませんか。私もそう思って調べてみましたが、錦鯉が国魚というのが見つかっただけで、ありそうだった国獣はなく、国亀も国蛙もありませんでした。それから国花も、実は正式には決まっ

ていなくて、桜と菊のどちらとも言えないのだそうです。おそらくこういうものを一つに決めようとしても異論が噴出してスッキリとはまとまらず、それなら無理やり決める必要もないか、ということになったのでしょう。それに、国獣なんて字面も語呂も良くありませんしね。

でもあまりかたく考えずに、例えばインターネットでも参加できるいろんな日本代表の人気投票みたいなのがあったら楽しそうです。どなたかやってみませんか。私は国亀がスッポンになってくれたら他に望むものはありません。 (ミ)

